

第4回 阿賀川自然再生モニタリング検討会 議事要旨

開催日時：平成30年2月28日（水）14:00～16:00

場 所：阿賀川河川事務所 1階会議室

【議事次第】

1. 開会
2. 所長あいさつ
3. 議事（1）
 - ・第3回検討会のご意見と対応について
4. 議事（2）
 - ・阿賀川自然再生モニタリング結果について
5. 議事（3）
 - ・NPO会津阿賀川流域ネットワークの調査結果について
5. 議事（4）
 - ・次年度モニタリング調査計画案について
6. 閉会

【議事】

- (1) 第3回検討会のご意見と対応について
 - ・第3回検討会における意見と対応について事務局より説明し、承認された。
- (2) 阿賀川自然再生モニタリング結果について
 - ・三本松工区の樹林について、ここはカワラハハコの大群落があり微高地となっており、洪水の影響を受けにくくなっている箇所であろう。数年で樹林化する。樹林が一行に見える箇所についてはもう少し広範囲にヤナギが生育していたが、洪水による外力で掘られやすい箇所が掘れ、ヤナギ林の一部が削られ綺麗に並んで残っているのではないかと思う。ヤナギが何年生かは、年輪の観察または直径の計測といった調査を実施すれば、どのように樹林化してきたかわかると思う。
 - ・昭和40年代は砂利採取等があり、人為的な影響もあって礫河原が広がっていたという理解で良いか。今後も礫河原を増やしていくと考えるならば、伐採や掘削などの工事を実施し、礫河原の再生を行うのか、それとも自然の営力を使って礫河原を再生していくのか、事務所の考えを聞きたい。
 - ・昭和40年代の河床は現在より一様であったため、洪水の度に流路が網の目のように変化し、また、砂利採取が盛んであった面もあり、樹林化しにくく礫河原が

広がっていたと考えている。砂利採取が無くなってきて、洪水が生じてみお筋が変化せず、崖のように比高差が生じ冠水しない箇所が広がり樹林化が進行していった。本事業では、比高差が大きい箇所を樹林伐採や河道掘削により冠水頻度を増加させ、樹林化しにくい礫河原を創出してきたので、将来にわたって工事を続けるのではなく、自然の営力を利用して今の礫河原が維持されることを期待している。礫河原の自然再生したところについてはずっと維持できるように、継続できるようなやり方を考えていきたい。

- ・ 事業の目的において、水衝部対策の他、河道の流下能力を上げ、洪水時の安全性を確保するという河川管理上の大前提がある。今後最大流量の増加が懸念される状況下においては、流下能力の確保という目的の方が重要となると思う。
- ・ 資料を拝見したが、よく調査されており感心した。現状では河川内に樹林や礫河原等様々な環境があるため、このように昆虫類も多く種が生息しているのだと思う。以前、阿賀川の左右岸でオサムシ類の調査をした人がおり、左右岸で種の違いがみられたことを報告していた。そういった現象も阿賀川ではみられることをこの場で述べておく。また、モニタリングの結果が地域の愛好家や住民などに伝わり、貴重な生物の保全について、少しでも市民の協力を得ながら進めて行ければ良いと思う。
- ・ 上米塚で確認されたスッポンについて、甲長から今年生まれの個体と思われ、河川区域内で再生産していることが推測される。DNA解析結果について了解した。またマムシについては河川区域内で定着しているか疑問である。カメ類については情報が不足しており、今後在来個体が残存していることが分かってきた場合に重要な情報となるので、スッポンをはじめカメ類については今後も留意して頂きたいと思う。
- ・ ウケクチウグイの個体数が少ないが、卵の量が少ないのだと思う。ウケクチウグイはウグイと産卵期も産卵箇所も重なっていると思う。ウケクチウグイを増やすことも重要であるが、阿賀川全体で魚の個体数を増やしていくことが重要であり、そのために産卵場を人工的につくることも一つの方法だと思う。また水域環境では淵が減少傾向にある。淵を残す、または作るという構想も考えてもらえればと思う。

(3) NPO 会津阿賀川流域ネットワークの調査結果について

- ・ 新橋の建設箇所では瀬替え等の工事が実施されており、我々はその直下流の水域を対象に、2013年から毎年冬季に、調査を実施しているため、結果について報告したい。冬季期間の本川水温は概ね2℃前後であるが、この調査箇所は12℃程度を保っており、豊富な湧水量のあるところと考えている。このため多くの小魚が冬季に集まってくる箇所である。今年度の調査では、新たに大きなナマズが数

個体確認され、フクドジョウ、シマドジョウが全く確認されなくなりこれまでの調査結果と大きく変化した。調査はこの1地点だけであるが、このような現象が他の箇所でも起きていないか危惧している。このような湧水箇所は熱赤外線撮影結果から阿賀川に多く見られることがわかっている。魚類の他、ミクリなどの重要な植物が生育しており、阿賀川の生物を支えている箇所と思う。我々の結果や本モニタリング結果も併せて阿賀川の保全への大きな力になることを期待する。

(4) 次年度モニタリング調査計画案について

- ・ 次年度モニタリング調査計画案について事務局より説明し、承認された。
- ・ 次年度が最後となるので、今後の維持管理に資するデータの取得、とりまとめをして頂きたいと思う。
- ・ 非常に精力的に調査されており、ここまで良い成果が上がっていると思う。事業の評価にあたっては、河川の掃流力とヤナギの繁茂状況の関係から、どのくらいの流量で樹林化するのかわからないのか、また何年くらいで樹林化してしまうのかといった現象について、水理学的な指標の目安がつけばよいと思う。そういった観点で次年度まとめていただきたい。

以上